

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：38001

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H03094

研究課題名(和文) 占領下沖縄における農業・資源・農村問題：資料ネットワークの構築と実証的研究

研究課題名(英文) Food, agricultural and rural problems in Okinawa during the rule of the United States

研究代表者

小濱 武 (KOHAMA, TAKERU)

沖縄国際大学・経済学部・准教授

研究者番号：20816673

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の核は、戦後沖縄の食料・農業・農村問題に関する史資料の整理をとおりて資料ネットワークを構築し、それに基づく実証研究を行うことである。前者については、沖縄県公文書館所蔵のUSCAR資料を中心にデータベースを作成した。個人所蔵資料については、コロナ禍で劣化した資料を中心に保全作業も行うとともに、デジタル化も進めた。デジタルデータの公開については現在調整中である。後者については、重要であるにもかかわらず既往研究ではそれほど利用されてこなかった琉球政府やUSCARの行政資料の発掘・分析が進み、本研究の問題意識をもとに(農業史研究にとどまらない)戦後沖縄史についての研究史の再検討が深められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日のいわゆる「沖縄問題」への注目と相まって、沖縄の歴史、特に1972年に日本に「復帰」するまでのアメリカ統治下で経済社会がどのように再編されたのかという問いは、学術的・社会的な重要性を一層増している。この研究は、この問いを考えていくに当たって避けては通れない歴史資料の利用環境を整備し(資料ネットワークの構築)、それらを利用した実証研究の可能性を開くことを目的とする。この研究をとおりて、利用した資料のオリジナリティや実証水準の高さ、分析視角の点で、これまでの戦後沖縄史研究に大きなインパクトを与えるユニークな成果を多数得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to construct the network of historical materials concerning the food, agricultural and rural problems in US-occupied Okinawa, and to pursue empirical study about the problems. We had surveyed materials in Okinawa Prefectural Archives, Wabiai no Sato (placed in Iejima), and other places. We also had contributed to protect damaged materials and digitalize of them. Our empirical study presented the usefulness of the materials of the USCAR and the GRI and provided the way of reexamination of the study related to US-occupied Okinawa.

研究分野：沖縄農業史

キーワード：戦後沖縄 アメリカ占領 農業・農村 資料研究 基地経済

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

戦後、沖縄は日本から切り離され、アメリカ占領下におかれた(1945-1972年)。占領下の沖縄農業史研究では、農地改革が実施されず、価格支持政策や保護貿易政策もなかったといった沖縄農業を取り巻く政策・制度的環境を指摘するとともに、そこから、アメリカや日本による沖縄占領政策の収奪的ないし低開発的性格を読み取ってきた。ただし、これらの既往研究では、政策・制度が地域社会とどのような関係性を結びながら展開したのかという問題が死角化されてきたことも否めない。

本研究では、当該期の沖縄の農業について、産業としての農業の課題や展望、(土地を含めた)資源をめぐる動揺、地域に住まい農業を担う人びとが抱えていた葛藤など、さまざまな問題が重層的に存在していたことに着目し、「占領下沖縄における農業・資源・農村問題」という分析軸を設定し、当該期の沖縄における農政の展開について総合的かつ実証的な把握を試みる。

ただし、実証的な分析を行うために必要となる史資料には、散在して所蔵されており資料の全体像が不明であることなどの問題がある。研究史を前進させるためには、これらの史資料を統一的に把握することが解決すべき課題となる。

2. 研究の目的

以上のような背景から、本研究では、占領期の沖縄農業関係資料について、地域を単位としての資料ネットワークを構築し、それを活用して実証的研究を行うことを目的とした。その際、対象地域を、米軍の射爆場として土地接収が強行された伊江島と、嘉手納基地に隣接しいわゆる「基地経済」的發展を典型的に遂げたコザとした。両地域は、占領下の沖縄における農業・資源・農村問題について最も典型的に見ることができる場所であるとともに、それぞれの地域に関する具体的な記録が個人資料として保存・整理されている貴重な事例でもある(伊江島で軍用地接収に対峙した阿波根昌鴻氏の資料群、および琉球政府立法院議員やコザ市長を歴任した大山朝常氏の資料群)。

3. 研究の方法

上記の研究課題を遂行するため、本研究では、以下のように研究を進めた。

第一に、沖縄県公文書館など公的機関での資料調査に加えて、阿波根資料の調査(沖縄県伊江島)及び大山資料の調査(沖縄国際大学所蔵)を進め、農業関係資料のデータベース作成を進めた。また、阿波根資料及び大山資料の一部についてはデジタル化を行った。ただし、2020年度からのコロナ禍の影響により、資料調査については当初の計画を大幅に縮小せざるを得なかったことも付記しておく。

第二に、資料調査の成果をもとに、占領下沖縄における農業・資源・農村問題についての共同研究を行った。その際、以下のような四つの課題を設定した。研究成果については、毎年2回ほどオンラインでの意見交換を行った。

1) 軍用地をめぐる農業・資源・農村問題(伊江島)

阿波根昌鴻氏の個人資料群に含まれている活動記録(陳情書、書簡、日記・メモ帳など)伊江村文書、伊江村議会の記録、写真などを分析することで、軍用地をめぐる展開したであろう伊江島の農業・資源・農村問題を明らかにする。関連する琉球政府文書(陳情書、書簡、行政記録、立法院議事録など)を利用しながら、多角的な視点から分析を行う。鳥山が主担当。

2) 基地の街と農業・資源・農村問題(コザ)

大山朝常氏の個人資料群に含まれているコザ市政関連資料(コザ市文書、コザ市議会の記録)や、琉球政府立法院議員における政策立案資料、政府の各種委員会における委員としての活動などを分析することで、農村から基地の街へと発展していったコザ市の農業・資源・農村問題を描き出す。関連する琉球政府文書(陳情書、書簡、行政記録、立法院議事録など)を利用しながら、多角的な視点から分析を行う。秋山が主担当。

3) 琉球政府から見た沖縄の農業・資源・農村問題

行政記録や書簡などを中心に利用しながら、琉球政府農政における農業・資源・農村問題の位置づけを実証的に検討する。また、2つの個人資料群に含まれる地方行政の行政資料を分析し、行政の現場レベルでの対応に着目しながら、琉球政府農政の展開を総合的に明らかにする。小濱が主担当。

4) 占領期沖縄における農業関係資料についての史料論的アプローチ

本研究が構築した資料ネットワークやそこで捕捉された資料について、史料論の立場から分析を行う。研究テーマ1)~3)の前提となるとともに、1)や2)における地域社会という視点と、3)における中央政府という視点を繋ぐ役割を持つ。高江洲が主担当。

4. 研究成果

1)資料ネットワークの構築

沖縄県公文書館所蔵のUSCAR資料では農業・農村政策に関する資料を収集し、データベースを作成した。阿波根資料では写真資料を中心とする新資料群を発見し目録を作成するなどの成果もあった。また、コロナ禍での史資料保存環境の悪化に対処するため、資料調査と並行して保全作業も行うとともに、資料のデジタル化も進めた。デジタルデータの公開については、沖縄国際大学南島文化研究所をとおして調整中である。

2)実証研究

コロナ禍で資料調査が中断されたため、利用可能な資料が、各人のこれまでの資料調査の蓄積と沖縄県公文書館などが公開するデジタルアーカイブスに限定されざるを得なかったが、その予期し得なかった成果として、重要であるにもかかわらず既往研究ではそれほど利用されてこなかった琉球政府やUSCARの行政資料の発掘・分析が進み、本研究の問題意識をもとに(農業史研究にとどまらない)戦後沖縄史についての研究史の再検討が深められた。

については、占領下沖縄における学校給食事業に着目し、住民福祉という面だけでなくアメリカの余剰農産物処理という面から分析を行い、当該期の農業生産の衰退との関係という論点を研究史に提示した(小濱(2023))。また、農業・農村における諸問題の解決に当たってはアメリカや日本による沖縄に対する援助(=救済)が決定的に重要であったことを与件として、沖縄が自らを日本国内での砂糖生産地として位置づけることで日本からの救済を獲得しようとする構造が戦前から継続していたこと、およびアメリカにとっては救済を実施したことが沖縄の占領を正当化するための言説に動員されたことを明らかにした(小濱(2024)、鳥山(2024))。

については、人びとの生存の場としての農村を一つの軸とすることで、研究史を再整理した(高江洲(2023))。また、今日の沖縄が抱える問題群を歴史の中で検討した成果(鳥山(2022)、秋山(2022))は、沖縄史にとどまらず農業史研究のアクチュアリティ についての問題提起としても読まなければならないだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小濱武	4. 巻 58
2. 論文標題 戦後沖縄における台風エマ救済政策の歴史的意義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山淳	4. 巻 58
2. 論文標題 農業・農村から再考する沖縄現代史研究の論点 - 米国統治期の砂糖生産に関連して -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高江洲昌哉	4. 巻 5
2. 論文標題 沖縄近現代史研究の50年	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 琉球沖縄歴史	6. 最初と最後の頁 79-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小濱武	4. 巻 57
2. 論文標題 戦後アメリカ統治期の沖縄における学校給食事業の展開：琉球政府学校給食法の制定過程に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山淳	4. 巻 939
2. 論文標題 「返還50年」の沖縄をどうとらえるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山道宏	4. 巻 613
2. 論文標題 戦後沖縄の歴史はなにを問いかけるのか：日本復帰50年目の節目に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和運動	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小濱武
2. 発表標題 戦後沖縄における災害と救済 - 1950年代後半を中心に -
3. 学会等名 日本農業史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鳥山淳
2. 発表標題 農業・農村から再考する沖縄現代史 - 米国統治期の砂糖生産に関連して -
3. 学会等名 日本農業史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高江洲昌哉
2. 発表標題 沖縄近現代史研究の50年
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高江洲昌哉
2. 発表標題 沖縄と民衆史 「内なる天皇制」の後釜をうかがうもの
3. 学会等名 アジア民衆史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山道宏
2. 発表標題 基地社会・沖縄の生活と生命をめぐる運動：日本復帰50年の地点から考える
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小濱武
2. 発表標題 戦後アメリカ統治期沖縄の給食事業
3. 学会等名 日本農業史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高江洲昌哉
2. 発表標題 沖縄近現代史研究の50年
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA) (10449366)	神奈川大学・国際日本学部・非常勤講師 (32702)	
研究分担者	鳥山 淳 (TORIYAMA ATSUSHI) (60444907)	琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授 (18001)	
研究分担者	秋山 道宏 (AKIYAMA MICHHIRO) (90813767)	沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 (38001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------